

単元名「わたしたちのエコチャレンジ」(第4学年 環境)

■本事例のポイント

1. 実際の場面を想定したリハーサルを行うことで、起こり得る問題状況を明らかにし、課題を設定できるようにした。
2. 不用品やリメイク品を販売する活動を通し、商品にどのような思いや願いを込めて工夫するのか考えられるようにした。

■単元の目標

地域のお祭りでバザーを開く活動を通して、物を売る人の消費者に対する配慮や思い・工夫について理解し、無駄な物を減らしたり再利用・リメイクしたりすることなどについて考えるとともに、持続可能な社会の実現に向けて自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

■単元の指導計画(30時間)

第1小単元

「わたしたちのエコチャレンジ」

- ・現在のゴミの状況について詳しく学習し、今後の見通しをもつ。
- ・身近な人達の取組から、自分自身の生活を振り返り、自分にできることを考える。

第2小単元

「『バザー』を開こう」

- ・不用品を持ち寄り、リメイク・リペアなどを行い、バザーで売る商品を作る。
- ・自分たちの思いをどのように商品に込めるのか考える。
- ・バザーのリハーサルを行い課題点を見いだす。
- ・バザーで、思いを込めた商品を販売する。

■本時の概要

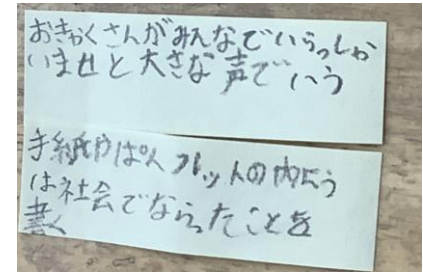
本時の課題

リハーサルで見付かった課題点を明らかにし、
どうしたら、よりよいバザーになるか考えよう。

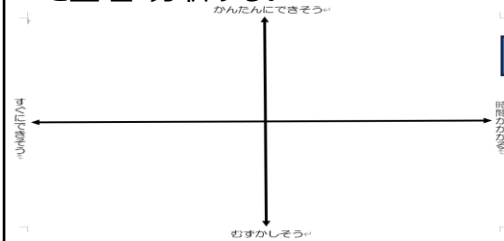
ワークシートを用い、リハーサルの前と後の自身の考えを比べる。

① バザーのリハーサルをする前(ビフォー)	② リハーサルをした後(アフター)
① 自分の思いは伝わりそうですか?	① 自分の思いは伝わりそうですか?
② 商品は売れそうですか?	② 商品は売れそうですか?
③ リハーサルをする前はどんな気持ちでしたか?	③ リハーサルをした後はどんな気持ちですか?

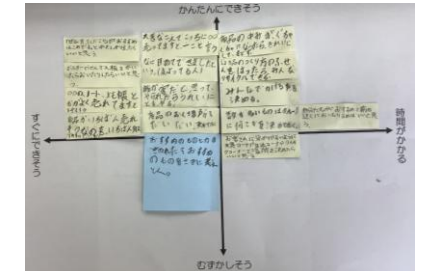
付箋に課題点を記入する。



座標軸を用いて、挙げられた課題点を整理・分析する。



考えられた課題点から解決策を考える。

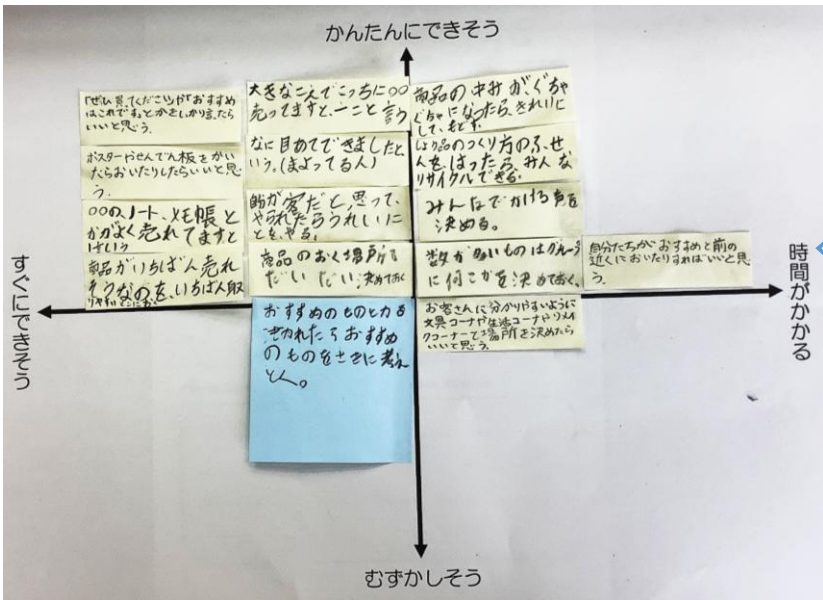


■ 学習調整をしている子供の姿

① 自分の想いは伝わりそうですか	① 自分の想いは伝わりそうですか
ぬのでかんは、こつ くたのておせい つたわにきうです。	のまのこたまとまたあんなさうたから 手紙やパンフレットなどにかきようは 自分の想いを伝えれると思う。



③ リハーサルをする前はどんな気持ちでしたか	③ リハーサルをした後はどんな気持ちですか
すこし不安で、しょうじき 二人なので、升人な、買 ってくれるのかな、はい	言葉を使ってもなかなか 伝わることができなかった から、あいさつは、しかりやうと、 た。



■指導と評価の工夫

①前時にリハーサルを行い、児童が物を売る工夫について気付く。

* 本番と同じ動きをしながら買う側の立場に立つことで、児童の考えに変化が見られた。

「がんばって作ったので想いは伝わりそう」



「今のところだとまだ伝わらなさそう」、「だから、手紙やパンフレットなどを活用したら自分の想いを伝えられると思う」 など

②前時にリハーサルを行い、問題点を明確化した。

* リハーサル前は漠然とした不安であったが、リハーサルを経て、問題点がより具体化され、更にその不安に対する、自分なりの解決策を記述することができた。

③座標軸を使い、情報（課題点）を整理・分析した。

* 似た意見・似ているが方法が違う意見など、分析を行うことができた。

* すぐにできそうな改善点と時間がかかりそうな改善点を明確にすることができた。

*その上で、次回以降行う改善策や必要なものを具体的に思い描くことができた。

■成果 (○) と課題 (▲)

○思考ツールの一つである座標軸を用いたことで、課題点が明確になり、本番までの限られた時間の中で改善策を考えることができた。

▲リハーサル時にあらかじめ付箋紙を配布することで、より確な課題点を記述することができたのではないかな。

▲共有アプリを用いれば、全体共有が更に活性化した。